

ごあいさつ



熊本県図画工作・美術教育研究会
会長 平木 美和

創造的教育研究集団～教育的ニーズをよむ～を目指して

コロナ禍にも関わらず、熊本県図工・美術教育研究会は、昨年度は阿蘇・山鹿・菊池ブロックが、そして、令和4年度は宇城・上益城ブロックが、研究大会の持続可能なかたちを模索しながら、意義ある研究実践を積み上げて来られました。この実行力や組織力が、日常の県内の図工・美術教育だけでなく、様々な私たちの教育の営みを支えていただいていると確信するところです。

この度は、今大会にご尽力いただいた門岡啓介実行委員長、三牧公久副委員長はじめ、研究会全員の皆様のご努力とご貢献に心から感謝申し上げます。また、この大会全般にわたって、ご指導・ご協力をいただいた宇城・上益城の各教育委員会はじめ関係諸機関、授業会場等を提供いただいた小中学校の関係者の皆様には心よりお礼を申し上げます。

前大会の令和3年度阿蘇・山鹿・菊池ブロックにおいては、「つなぐ・つながる造形教育」を主題に「つなぐ・つながる」の定義を示し、「教師が子どもと対象を結び付けて造形活動を設定すること」、「子どもが主体的に他者や他のものとつながり、造形力を高め豊かな心を培っていくこと」を目標として取り組みました。また、サブテーマに「色・形に思いをのせて」を設定され、目指す子どもの姿として5つの視点を掲げられました。ホームページ上での発表を見ますと、研究を通して子どもたちの変容や成長が随所に見受けられ、同時に、取り組まれている各支部の研究会の皆様の喜びや更なる探究心があらわされておりました。大いに他支部へも刺激を与えるものです。特に5つの視点は、創り出す喜び、見方や感じ方を深め、豊かに感じ合う喜びなど、このコロナ禍を含むネガティブな感情や不安を帶びた社会の中で、学校で学ぼう、協働し合おう、新たなものを創造しよう、学校に行きたい！という子どもたちの活気を支える図画工作・美術教育の存在価値の確認ともなりました。

このような取組の継続こそが「創造的教育研究集団～教育的ニーズをよむ～」をつくり上げていくのです。私たち、図画工作・美術教育に携わるものは、授業研究会や造形活動研修などで会員それぞれの創造性を発揮しながら情報発信し、コンクールや展覧会の企画・運営により組織人として、困難を糧として会員の知恵を結集し、乗り越え、新たな価値を創り出しています。教師は子どもの鑑です。きっと、会員の皆様のその活躍ぶりを子どもたちは感じ、学んでいることでしょう。

本会のホームページも、広報局を中心に支部会員の皆様と連携し、リニューアルを図りながら、情報発信や連携の要となりつつあります。宇城・上益城ブロックの発表によりさらに進展しました。2年の休止を経て今年度再開する第20回「くまもと・子どもの美術展」の開催により、子どもたちの作品のアーカイブ化も進めて参ります。個人情報保護の視点も大切にしながら、作品に表出さ

れた子どもの素直でみずみずしい感性を社会に発信したいと考えます。また、大人では表せない子どもたちの「表現の質」に真摯に学びながら、子どもたちの最善の利益や幸せを希求する上で、私たち教師が進めていくべき図画工作・美術教育を探求する基盤にもしたいと考えます。

令和5年度は九州大会熊本大会の開催の年でもあります。この度の宇城・上益城ブロックの発表は、さらなる熊本県図工・美術教育研究会の研究の研鑽と発展に寄与するものです。これを礎として九州全体の図工・美術教育の伸長へ歩を進めることと祈念しまして、ご挨拶いたします。